

質問事項		記述式回答
来年秋を見据えて、現在の景気の基調		
1	9月16日の経済財政諮問会議において、2015年秋を見据えて、現在の景気の基調を見る際、以下の5項目について今後注視すべきとされました。これらを参考に、現在の景気の基調や考慮すべきリスクをどうご覧になっているか、また、とるべき対応があれば、合わせて300字以内でご記入ください。 ① 消費の安定的増加、それを支える雇用者数・賃金の伸び(正規比率の上昇を含め)や消費マインド ② 企業収益の動向、民間設備投資の強さ(設備投資計画の動向も含む) ③ 輸出入の動向、交易条件の動向 ④ 物価動向(一時的要因を除いた実勢と期待物価) ⑤ マーケット(株価、為替、金利等)の動向	足元の景気の不調は、円安による国内物価の上昇と実質所得の海外流出が基本的な背景にある。結果として実質賃金が減少しているところで消費税を引き上げ、いっそうの物価の上昇を招いたのだから、景気にブレーキがかかることに不思議はない。ただし、今の景気の不調は、景気循環を越えて落ち込みが止まらなくなるような悪化ではなく、景気の循環が増税によって下方シフトしたにすぎない。景気自体は時間が経てば回復する。そもそも下方シフトした循環の水準を元に戻すことは不可能だから、本来、政策対応は不要。ただ、政治的にそれでは済まないのので、税収の上ブレ分を使った景気対策を打てばよい。一段の円安進行も、株価上昇には寄与しよう。
地方創生・地域活性化		
2	地方創生・地域活性化に向けて、重点的に取り組むべき課題及び対応策につき、ご自身(自社)の知見・経験も踏まえてお考えを300字以内でご記入下さい。その際、地方が抱える課題の背景についても、併せてご記入下さい。	今後、さらに急速に少子高齢化(現役人口の減少)が進んでいく以上、地方のすべてが活性化していくことはあり得ない。第一に必要なことは、地方自身が知恵と工夫で自ら活性化する努力を始めることであり、そうした努力をしている地域をサポートするために人材や予算を提供するのが国の仕事。最初に予算ありきではばらまきで終わりかねない。その意味で、地方が予算を獲得できるハードルを上げて、地方自身に改革のインセンティブを与えることが必要。
その他		
3	10月下旬の為替相場は107円台付近で推移しています。最近の為替相場の動向やその景気への影響について、ご見解があれば300字以内でご記入ください。	円安が輸出を増やす効果が期待できない現状では、為替相場の変動がもたらすのは差益と差損のみ。これは外貨建ての輸出入に発生する筋合いであり、しかも外貨建ての貿易赤字はトータルの貿易赤字を大きく上回っているだけに、円安の一段の進行はいっそうの物価の上昇と実質所得の減少をもたらす。この物価上昇は「デフレ克服」とは一線を画すべきもので、物価は上がりさえすればよいとする今の風潮はぜひ改める必要がある。円安進行に頼るような経済政策を推進すべきではない。